

こうきょうみんかん ニュース

2024年 Vol.13

発行：公共サービス民間労組評議会

公民評の
現場から

賃金水準改善などについて 協議することを確認 2024春闘

徳島県国保労組 執行委員長 西谷 直晴さん



徳島県国保労組では、2月13日の臨時大会で2024春闘方針を決定しました。

2024春闘は、賃金水準の改善、定年まで昇給可能とすること、再任用職員の賃金改善および扶養・住居手当の支給、臨時・嘱託職員の賃金改善および休暇の拡充、人員の確保、育休制度の改善、人件費等必要経費の確保、障害者の計画的な採用、福利厚生事業の拡充などを単組の重点要求項目とし、2月15日に自治労県本部・関連評統一要求書を提出しました。全組合員による春闘ワッペンを着用や上部団体の主催する各種集会への結集など、組合員全体で春闘に取り組みました。

2月28日に当局から回答を受け、3月8日、14日、26日に団体交渉を行い、①賃金要求については「人事院勧告後に労使で協議する」、②賃金水準改善については「課題と認識し、対応は今後協議する」、③臨時職員の賃金・処遇改善については「人事院勧告後に労使で協議する」、④ワーク・ライフ・バランスについては「超過勤務の縮減をはかり、仕事と家庭の両立をはかる」、⑤ハラスメント対策については「ハラスメントのない職場づくりのため、引き続きハラスメント苦情処理委員会等で協議する」、⑥メンタルヘルス対策については「ストレスチェックの実施により、メンタルヘルス悪化等の早期発見に努め、引き続き安全衛生委員会で検討する」、⑦障害者雇用については「今後も法定雇用率を遵守する」などの内容で合意し、春闘を終えました。私たちの働く権利を守り、安心して働き続けられるよう、引き続き組合員一丸となって取り組みを続けます。

ISJC職員労働組合(岩手)が結成



労組結成でパワハラ根絶
職場に平和戻る

岩手の一関シルバー人材センターで働く正規職員5人が、1月23日、「ISJC職員労働組合」を結成しました。「パワーハラスメントの根絶が結成に至る最大の問題でしたが、この間、団体交渉や理事会に対するテコ入れが功を奏して、職場に平和が戻りました。今後は労働組合としては当然の賃金・労働条件の引き上げを軸に取り組んでいきます」と執行委員長の小山真利子さん(写真前列中央)は意気込みます。

災害時のトイレ対策

一次避難場所に働く じちろうの仲間と学ぶ

自治労東大阪市労働組合
自治体関連評議会公園環境協会分会

前田真さん



クイズを取り入れ講義を進めた

自治労東大阪市労働組合の執行委員を務める前田真(まえだまこと)さんは2024年8月2日、川口オートレース場(埼玉県川口市)で働く埼玉県競走労働組合の自治労組合員にむけて「災害時におけるトイレ対策 ～だれでも使いやすいトイレ環境づくり～」と題して講演した。

前田さんは普段、(公財)東大阪市公園環境協会に勤め、し尿収集業務を行う。また、トイレのプロとしての研さんを積み、一般企業や学校などで啓発活動を続けている。

川口オートレース場は同市内に15ヵ所ある指定緊急一次避難場所の一つだ。一時的な避難が想定される場所ではあるが、トイレも必要となることは言うまでもない。

前田さんは「大規模な地震が発生した際、電気、水、トイレなどの公共インフラは止まる可能性がある。電気・配管・処理施設・送水



施設・トイレなどが損傷すれば水洗トイレやくみ取りトイレの使用が困難になります」と話す。「発災後、あなたの身近にあるトイレは使えなくなります。そのときあなたはどうしますか」と約30人の参加者に投げかけた。

講義のほか、参加者は簡易トイレの使い方を体験。汚物の代わりとなる試料を注ぎ、凝固剤を入れる。一体どのようになるのか、と皆興味津々な表情だった。

講演の最後には率直な質問が多数あがり、埼玉県競走労働組合の仲間たちは災害時のトイレ対応を学び、日常生活から職場での対応を考えるきっかけとなったに違いない。



簡易トイレの設置から、汚物の処理までを体験

前田真さんは、10月4日に行われる「しまね自治研」全体集会の「1%の仕事から考える。課題が価値に変わるとき」と題したセッションに登壇します。公民評の仲間でもある前田真さんを応援しに、島根に行こう！

参加者申し込み受付中